

「京都を学ぶセミナー洛西編」第1回（開催報告）

2020年6月23日
京都学・歴彩館
075-723-4835

2018年度から開始した「洛西の文化資源」研究プロジェクトの成果を分かりやすく解説する「京都を学ぶセミナー【洛西編】」第1回を、下記のとおり開催しましたので報告します。

記

- 日 時 2020年6月23日（火）13:30～15:00
- 会 場 京都学・歴彩館大ホール
- 参加者数 94名（定員100名）
- 内 容 講演 京都光華女子大学教授 朝比奈 英夫
「京都、市井の文人たち—洛西地域の文化環境—」

■ セミナーの様子と当日の参加者の声

京都の文化資源を発掘する研究プロジェクトの第4弾として2018年度より推進してきた洛西編も研究の最終年度を迎えた。今年度は新型コロナウイルスの影響で第1回の開催が4月から6月にずれ込んだが、今後は毎月1回のペースでセミナーを開催していく予定であり、また、ソーシャルディスタンスを考慮して開催したい。

桂川の東岸、右京区西京極郡町を中心とする一帯を拠点とする中路氏がいた。中路家から京都光華女子大学に寄贈された林国雄著『百人一首解』を足がかりとして洛西地域の文化環境について講演があった。中路家の親族に金融業を営む細野氏がいた。細野長方は商売のかたわら江戸に遊学し、江戸の文人と交流をもっていた。中路家の人々は伝統的な文化を志向する細野長方の活動を理解し、長方とともにその世界を楽しむ知識と感性を備えていたのである。それが『百人一首解』に残された張り紙に記された研究の足跡に表れている。

近世において中路家の本拠は市街地ではなく、都市周縁部にあたる。市街地と周縁部で生活環境に相違はあったと思われるが、文化的環境には相通する部分がある。洛西の文化的環境を整える一役を担ったのが地域文人たる中路家の人々であったのである。

多くの写真資料を用いた詳しい説明もあり、大変わかりやすいセミナーであった。参加者からも好評を博した。

